

仮想発電所（バーチャルパワープラント）技術の活用による 再生可能エネルギーの有効利用に向けた取り組み

2019年4月17日

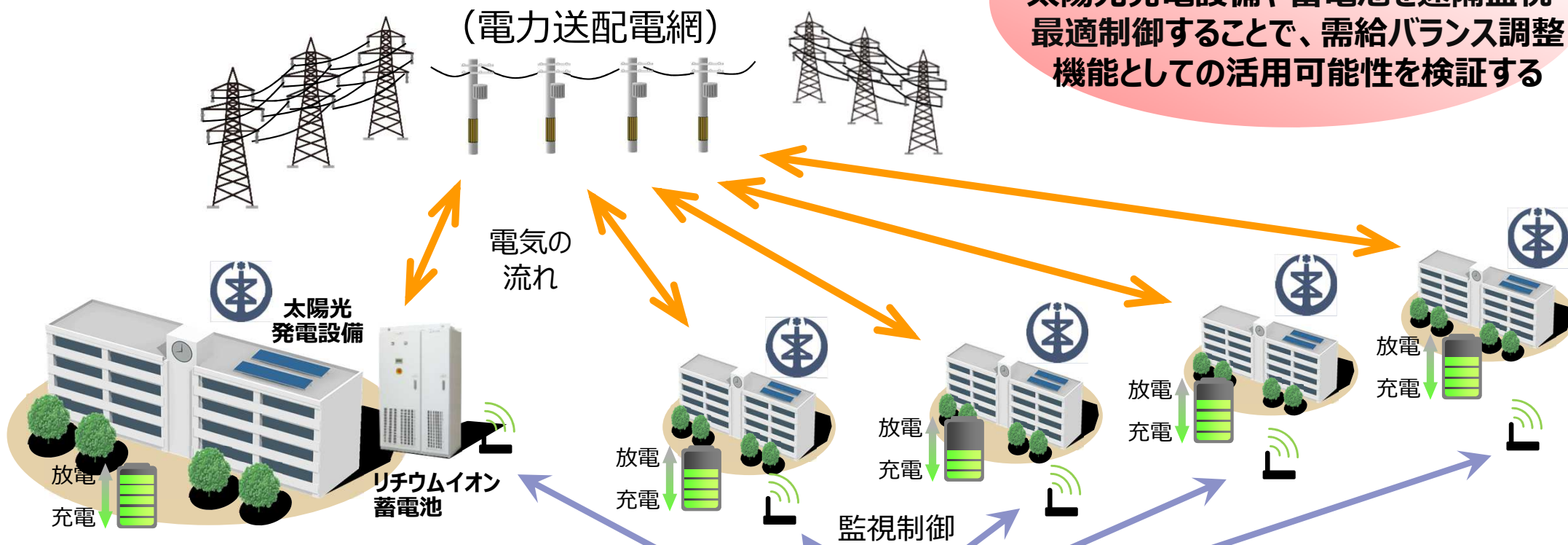


取り組みの概要

VPPとは、地域に分散して存在する蓄電池等を遠隔制御し、集約することで、あたかも1つの発電所のように機能させる仕組み

【東北電力の狙い】

電気事業で培った知見を活かし、太陽光発電設備や蓄電池を遠隔監視・最適制御することで、需給バランス調整機能としての活用可能性を検証する



【新潟市の狙い】

防災機能を維持しつつ、太陽光発電の余剰電力の有効活用、設備管理の効率化、蓄電池の長寿命化を目指す

蓄電池監視制御サーバー (VPP実証プロジェクトのシステム)

各施設の太陽光の発電電力量や蓄電池の残量等を遠隔から監視し、電力の使用状況等を踏まえて、太陽光発電設備や蓄電池を最適に制御

実証事業の進め方と基本協定内容

実証事業の進め方

- 対象施設 市内小中学校5カ所
- 事業期間 2019年4月17日から2021年3月31日まで（約2カ年）
- 検証項目
 - ・太陽光発電設備・蓄電池の一元管理（監視・制御）手法
 - ・太陽光発電の余剰電力の有効活用、設備管理の効率化、蓄電池の長寿命化
 - ・電力需給バランス調整機能としての活用可能性
- スケジュール
 - ・2019年度 実証システムの準備、3カ所での実証開始
 - ・2020年度 5カ所で実運用による検証

基本協定書の内容

- 目的
 - 小中学校において、仮想発電所技術を活用した再生可能エネルギーの有効利用に向けた取り組みを通じて、環境負荷の抑制および地域防災機能の一層の強化に寄与する
- 連携事項
 - ・相互の情報、技術等知的資源の活用に関すること
 - ・共同して実施する事業の企画、調整および推進に関すること